

# さいたま市立博物館

博物館学習ノート

小学校4年生向き



# 常設展示室案内図



博物館には、常設展示室と特別展示室があります。この学習ノートでは、常設展示室に展示されているものを中心に学習していきます。

見沼代用水については、ここで学習することができます。

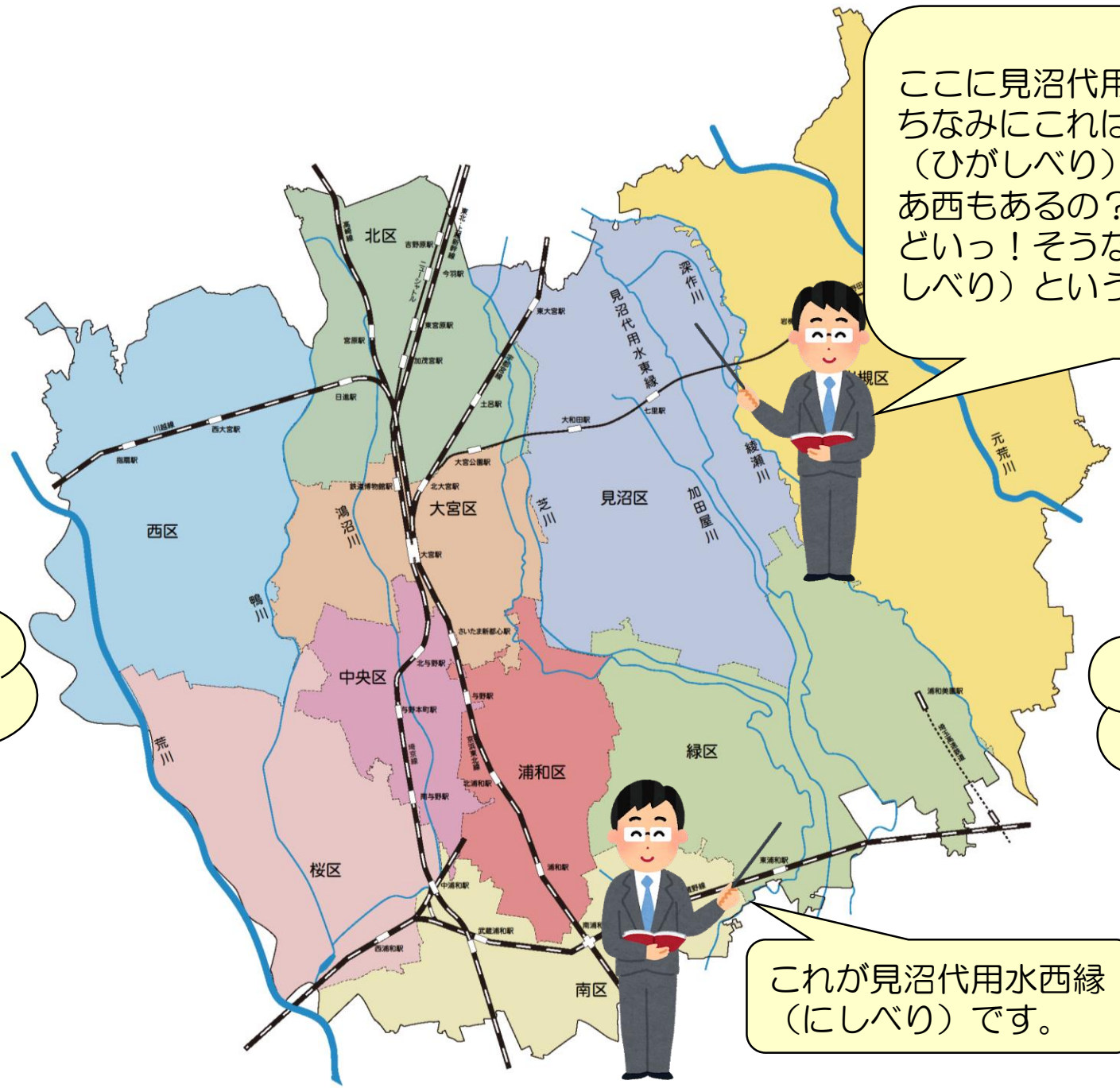
今回は、3つのポイントを中心に学習していきます。





# 【答え】

**問題**  
地図の中から見沼代用水を見つけましょう。



ここに見沼代用水がありますね。ちなみにこれは「見沼代用水東縁（ひがしべり）」です。東？じゃあ西もあるの？と思った人はするどいっ！そうなんです。西縁（にしべり）というのもあります。

東縁があるなら、西縁もあるのかな？



黄色でなぞられているところが見沼代用水の西縁みたいだね。



これが見沼代用水西縁（にしべり）です。

# 問題

## 見沼代用水を引いた井沢弥惣兵衛について答えましょう！

(1) 見沼代用水を引いた井沢弥惣兵衛は、何年にどこ（今の何県）で生まれましたか。

答え

年

今の

県

(2) 井沢弥惣兵衛が、何歳の時に、見沼代用水を完成させましたか。

答え

歳

(3) 井沢弥惣兵衛が、何歳の時に、見沼通船堀を完成させましたか。

答え

歳

## 井沢弥惣兵衛の年表

年	年れい	できごと
1663年	0歳	紀州（今の和歌山県）に生まれる。
1690年	27歳	紀州で役人になる。このころ紀州で用水の工事をいくつか行う。
1723年	60歳	幕府の役人になる。
1725年	62歳	見沼ため井より下流の田や村々のようすを調べる。
1726年	63歳	見沼ため井の深さを調べる。
1727年	64歳	見沼代用水の工事を始める。
1728年	65歳	見沼代用水の工事を完成させる。
1729年	66歳	鴻沼の開発を始める。
1731年	68歳	見沼通船堀をつくる。
1738年	75歳	なくなる。

ヒント

上にある年表を見  
てみよう



# 問題

## 見沼代用水を引いた井沢弥惣兵衛について答えましょう！

# 【答え】

(1) 見沼代用水を引いた井沢弥惣兵衛は、何年にどこ（今の何県）で生まれましたか。

答え 1663 年

今の 和歌山 県

(2) 井沢弥惣兵衛が、何歳の時に、見沼代用水を完成させましたか。

答え 65 歳

(3) 井沢弥惣兵衛が、何歳の時に、見沼通船堀を完成させましたか。

答え 68 歳

## 井沢弥惣兵衛の年表

年	年れい	できごと
1663年	0歳	紀州（今の和歌山県）に生まれる。
1690年	27歳	紀州で役人になる。このころ紀州で用水の工事をいくつか行う。
1723年	60歳	幕府の役人になる。
1725年	62歳	見沼ため井より下流の田や村々のようすを調べる。
1726年	63歳	見沼ため井の深さを調べる。
1727年	64歳	見沼代用水の工事を始める。
1728年	65歳	見沼代用水の工事を完成させる。
1729年	66歳	鴻沼の開発を始める。
1731年	68歳	見沼通船堀をつくる。
1738年	75歳	なくなる。



工事を始めてから完成までは、わずか6か月だったそうです。



## 学習ポイント②

さて、井沢弥惣兵衛がつくった見沼代用水。井沢弥惣兵衛は見沼代用水をつくるために、たくさんの工夫をしています。井沢弥惣兵衛が行った工夫について、ここでは見ていきたいと思います。その前に、井沢弥惣兵衛と見沼代用水についてみていきましょう。



さいたま市の東の方に位置する見沼は、その昔、あれ地や沼が広がっていました。385年ほど前に芝川をせきとめて、田んぼで使う水をためるため池（見沼ため井）を作りました。



しかし、290年ほど前、江戸幕府（えどばくふ）は、お米をたくさん取れるようにするため、ため池（見沼ため井）をなくし、田んぼに変えようとなりました。ため池がなくなり、お米を育てるのに必要な水はどうしよう？と人々は困ってしまいました。そこで、この問題を解決したのが井沢弥惣兵衛なんです。



## 問題

見沼代用水について、( )の中に当てはまる言葉を口の名から選んで入れてみましょう。

(1) 見沼代用水は、( )川から水を取り入れていきます。そして、まもなく( )川と合流しています。

(2) さらに下流に進むと、元荒川とぶつかります。ここでは、( )で川をくぐらせました。

また、綾瀬川(あやせがわ)とぶつかるところでは、( )で川の上を通しました。

- 星(川)
- ふせこし
- トンネル
- 荒(川)
- かけとい
- 橋
- 利根(川)



## 問題

見沼代用水について、( )の中に当てはまる言葉を口の名から選んで入れてみましょう。

(1) 見沼代用水は、( 利 根 川 ) から水を取り入れていきます。そして、まもなく( 星 川 ) と合流しています。

(2) さらに下流に進むと、元荒川とぶつかります。ここでは、( ふせこし ) で川をくぐらせました。

また、綾瀬川(あやせがわ)とぶつかるところでは、( かけとい ) で川の上を通しました。

## 【答え】

- 星(川)
- ふせこし
- トンネル
- 荒(川)
- かけとい
- 橋
- 利根(川)

# 【答え・解説】

これは「かけとい」の模型です。下に流れているのが綾瀬川です。その綾瀬川の上を見沼代用水が流れていますね。

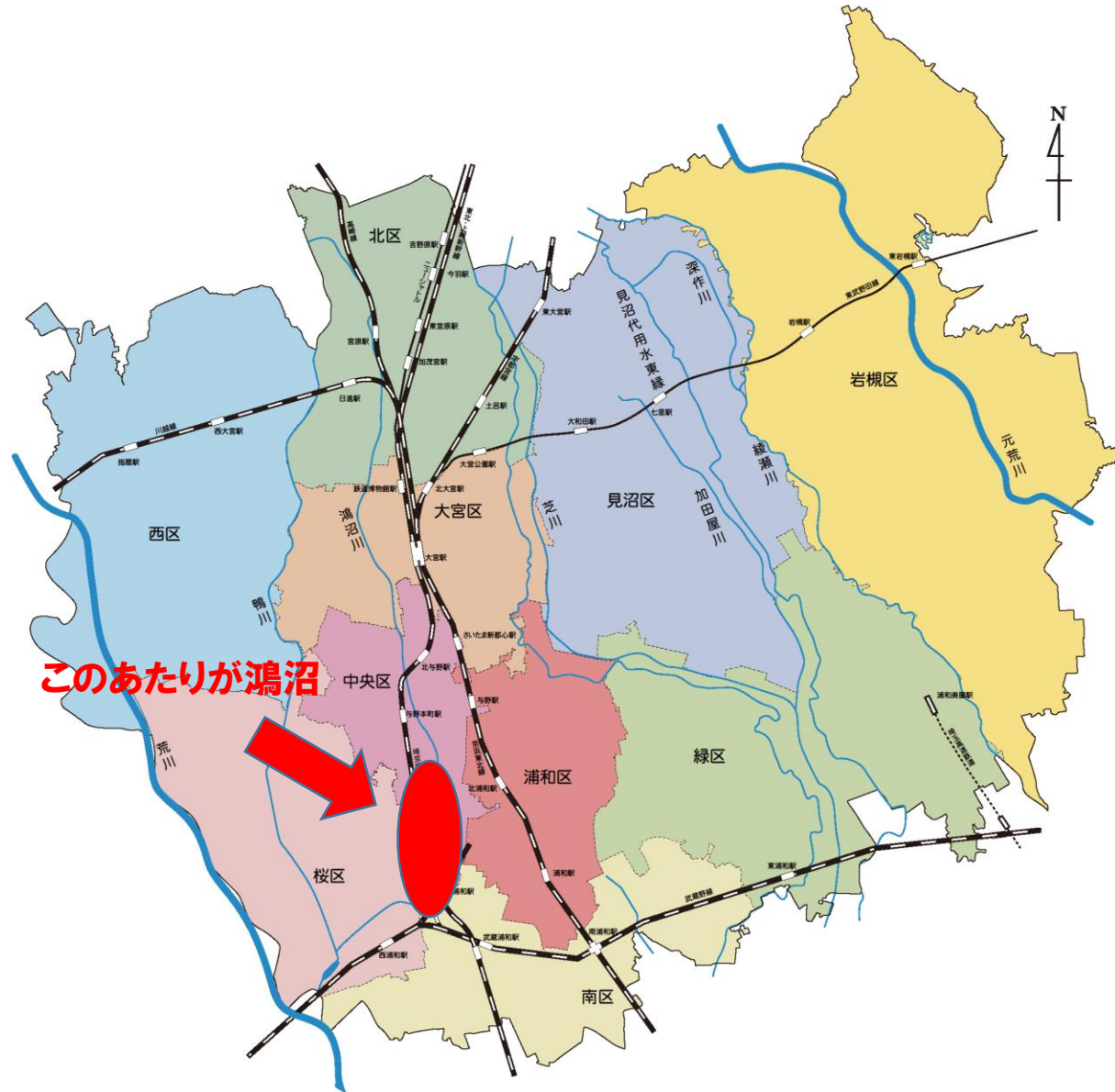


これは「ふせこし」の模型です。真ん中に流れているのが元荒川です。その元荒川の下をくぐらせているのが分かりますよね。



このような工夫を290年前に行っていたなんてすごいですよね。しかも今みたいに機械のない時代にですよ。すべて手作業だったなんて信じられませんね。

# 学習ポイント③



さいたま市には見沼の他にも開発された沼があります。それが鴻沼（こうぬま）です。まずは、さいたま市の地図で鴻沼の場所を見ましょう。



鴻沼は、今の中央区から桜区にかけて南北に細長く広がった沼です。



鴻沼は、農業用のため池として使われていました。17もの村々が利用していたそうです。



鴻沼もお米の取れ高を増やすため田に変えることになりました。



## 問題

鴻沼の開発について、( )の中に当てはまる言葉を口の名から選んで入れてみましょう。

(1) 鴻沼の開発をしたのは、( )です。

(2) ( )から水を引いて、用水をつくりました。この用水のことを( )といいます。

(3) 鴻沼を開発した結果、( )ヘクタールの新しい田にかわりました。

(4) ( )は鴻沼の下流の村々でも使われ、( )川につながっています。

- 鴻沼用水
- 荒(川)
- 徳川家康
- 100
- 見沼代用水西べり
- 利根(川)
- 75
- 見沼代用水
- 井沢弥惣兵衛
- 見沼代用水東べり

\*同じ言葉が入るところもあります。

## 問題

鴻沼の開発について、( )の中に当てはまる言葉を口の名から選んで入れてみましょう。

- (1) 鴻沼の開発をしたのは、( 井沢弥惣兵衛 )です。
- (2) (見沼代用水西べり)から水を引いて、用水をつくりました。この用水のことを( 鴻沼用水 )といいます。
- (3) 鴻沼を開発した結果、( 75 )ヘクタールの新しい田にかわりました。
- (4) ( 鴻沼用水 )は鴻沼の下流の村々でも使われ、( 荒 川)につながっています。

## 【答え】

- 鴻沼用水
- 荒(川)
- 徳川家康
- 100
- 見沼代用水西べり
- 利根(川)
- 75
- 見沼代用水
- 井沢弥惣兵衛
- 見沼代用水東べり

\*同じ言葉が入るところもあります。

博物館には、他にもたくさんの  
展示があります。  
ぜひ、博物館にも来てください

